「平和と人権」市民ネットワーク情報 No.23-12 (通算 104 号)
事務局発行(TEL 0557-45-1182) http://peaceito.moo.jp 2023.12/11

映画「わが青春つきるとも」135人来場

◆12 月 3 日、強い風の吹くなか、135 人の方が「ひぐらし会館」に足を運び、伊藤千代子の生涯を描いた「わが青春つきるとも」を視聴しました。開場前からホール前はたくさんの人だかりです。原作者の藤田廣登さんが販売コーナーを設け、市職の保育園部の女性が署名を呼び掛け、市民劇場の役員が公演チラシを配布。開始前の賑やかな雰囲気でした。午後 2 時、藤田さんの挨拶に続いて始まった映画の上映時間は 121 分。牧歌的な前半生から一転、後半は官憲の凄惨な拷問とそれに耐える千代子の痛ましい姿を描きます。社会を良くしたいという理想を信じて、拷問にも夫の転向にも屈せず志を貫いた千代子の生き方は時代を超えて観る人の心を打ちます。

上映前は戦前の重い深刻なテーマを映像化したこの作品にどれだけ来場者があるか心配しました。が、共産党伊東支部を始め、新婦人の会、年金者組合など、たくさんの団体がチケット販売に協力してくれました。「わが青春つきるとも」上映会は、映画の内容も財政面でも成功裡に終わりました。ありがとうございました。

アンケートの紹介 ― 映画を見ての感想 ―

①昔の現実！この頃、テレビも新聞も取り上げなくなって、久しぶりの内容でした。
忘れてはいけない、と改めて心に刻みました。

②いかなる時にも信念を貫き通した女性たちの生き方に勇気をいただきました。あの時代に女性たちがこれほど頑張っていたこと、知りませんでした。映画の上映、ありがとうございました。

③自分の生き方を貫いた彼女は、素晴らしい！

④よくぞ真実を掘り起こし紹介していただきました。感謝します。現状を見ると過去のこととは思えません。

⑤良かったです。正直なところ、この時代に生きていなくて良かったです。

⑥感動しました。信念の伊藤さんから勇気をたくさんもらいました。

⑦大変良かったです。私も千代子さんに負けないように頑張っていきます。

⑧とても良い映画で感動しました。民主主義の大切さを痛感しました。

⑨命をかけて世の中を良くしようと志はしっかり受け継がれてもっと大きくしなくては強く思いました。

⑩この日本で本当に起こったこと。そして、今また同じことを繰り返そうとしている政府。私たちは諦めずに声をあげ続けなければいけませんね。

⑪ずっと観たいと思っていた映画でした。計画してくれてありがとうございました。先人の努力で私たちは自由に活動できています。これからの人生、精一杯生きていきたいと思いました。

⑫この映画を作った方の勇気に感動です。すばらしい!

2023年度の活動を振りかえって

【Ⅰ】主な活動

(1) イベント・学習会・諸活動

1月29日(日)…「ネットワーク」と「アクション」の年次総会を開く。

2月19日(日)…観光会館第4会議室で原田政信さんを講師に安保三文書の学習会を行う。

3月21日(火)…「ひぐらし会館」で、松元ヒロ・ソロライブを盛況裡に挙行する。

4月　9日(日)…「伊豆高原9条の会」設立総会を開く。

5月　3日(水)… 松川公園で憲法集会を開き、事後、市内をパレードする。

7月 1日(土)…「平和憲法を守ろう」のシールを会員・賛同者全員に配布する。

7月10日(月)…川奈駅前で高校生に「ミサイルより平和を」のパンフが入ったハンドティッシュを配る。

7月19日(土)…観光会館第4会議室で「日本維新の会をどう見るか」学習会を開く。

※9月24日…伊東市市議会選挙、投票日。

11月 1日(水)…ブックレット「国会議員の任期延長改憲　その危険な本質」を会員・賛同者全員に配布する。

11月29日(水)…「伊豆伊東高校」前で、母親連絡会等と協力して署名・宣伝活動を行う。 →

12月　3日(日)…ひぐらし会館で「わが青春つきるとも」を上映する。

(2) 定例の活動

①毎月19日、観光会館前でスタンディング・アピールを行なった。(2月は雨天中止、9月は市議選前で有志による活動)

②毎月機関誌「情報＆通信」を発行した。(23年8月号で通算100号となる)

③ホームページ「『平和と人権』市民フォーラム」を更新する。(11月30日現在106本登載)

(3) 他団体との共同活動

①平和委員会、原水協伊東支部、新婦人の会と協働して、毎月6日、湯ノ花通で署名宣伝活動に取り組んだ。

②「市民病院の今と明日を考える会」、「生健会」、「市政懇談会」の活動に協力する。

【Ⅱ】活動を振りかえって

(1)軍事の全面化

元学術会議会長の広渡清吾氏は岸田政権を「自覚なき戦後最悪の反動政治」と評します。安倍晋三のように復古的価値を確信犯的に信奉しているわけではない。国内外の状況に追随して日本社会の全面的な軍事化を押し進め、戦後日本の核心的価値である平和憲法を葬りさろうとしている、というのです。この一年、岸田政権は、昨年 12 月 16 日に閣議決定された「安保三文書」を具体化し、軍事費の倍増化など、あらゆる分野で軍事化を押し進めました。非戦・非武装を定める憲法 9 条は、この事態をどんな思いで見ているのでしょう。われわれ市民に何を問いかけているのでしょう。

(2)権力と市民

岸田首相の頭の中には憲法の縛りは意識されていないように見えます。彼の頭にあるのは憲法ではなく、アメリカです。憲法を権力者から取り戻すのは、私たち市民の運動の他にはないと思います。この一年、微力ですが憲法を取り戻すべく運動を進めてきました。毎月 19 日のスタンディング、毎月 6 日の湯ノ花通りでの署名・宣伝活動、5 月 3 日の憲法集会と市内パレード。高校生向けに駅頭や学校前でパンフ配布などの宣伝活動も行いました。岸田軍拡の学習会や「国会議員の任期延長改憲」のブックレット配布も行いました。このような運動がどれだけ共感を持って市民の間に広がっていったか、私たちの自己満足に終わったのではないかとも思います。とはいえ、結果を追うことが会の目的ではありません。一人一人が必要だと思うことをできる範囲ですることが会の結成の趣旨です。憲法を取り戻す志を持ちながら、権力者の憲法破壊に対する”つっかい棒”となるぐらいの気持ちで、運動に取り組んで行きたいと思います。

(3)地区 9 条の会の結成

草の根から平和憲法を擁護する運動を広めるために、市内の各地域で『地区 9 条の会』の結成を目指しました。昨年 12 月 14 日に「川奈・吉田 9 条の会」が作られ、現在まで 7 回の学習会を実施しました。「伊豆高原 9 条の会」は 4 月 9 日に 40 数名の人が参加して設立されました。その活動ぶりは対照的です。「川奈・吉田の会」は 2 ヵ月に一度の集まりで、学習テーマも「ILO の活動」とか「インボイス制度」など、さまざまです。「伊豆高原 9 条の会」は毎月 9 日に街頭宣伝を行いつつ、曜日を決めて世話人会兼学習会を行っています。一方は「ゆるゆる」、他方は「堅実な」会です。どちらも参加者を広げることが課題ですが、少ない人数でもめげずに、集まった人がプラスになると思うことがあれば、会が続いていくと思います。他の地域でも、難しく考えずに、3 人でも 4 人でも集まって、気楽に会を作ってみたらどうでしょうか。

（伊豆高原 9 条の会の設立総会）

(4)市議選について

9 月 25 日投票の伊東市議会選挙が行われました。伊東市民アクションの会員からは、重岡秀子さん、伊藤廣光さん、犬飼このりさん、の三人が立候補しました。重岡さんと犬飼さんが当選、伊藤さんは次点でした。当選者は市民とのつながりを力に議会で、伊藤さんは市民活動の柱石として、活躍してほしいと思います。

11 月の 19 日行動

前夜からの強風もおさまり、暖かな日射しのもと、観光会館前で恒例の 19 日行動=スタンデイング活動を行いました。今日の行動には二つの特徴がありました。一つは市職の若い女性組合員がたくさん参加し、全体でも 40 名近くの参加者があったことです。昨年 3 月 19 日のウクライナ戦争抗議集会以来のことでした。二つ目はスピーチの内容です。どの人もイスラエルによるガザ侵攻を非難し、即時停戦を訴えました。国際人道法違反の見地からイスラエルを非難した斉藤委員長、国連の停戦決議を棄権した日本政府を批判する大川好子さん、犬飼このりさんはそれがアメリカに追随する主体性のない外交によるものであると説きました。年金者組合の川合伸さんは物価上昇に見合う年金の引き上げを求めました。伊藤廣光さんは伊豆高原 9 条の会の活動を紹介ながら、議員任期の延長を企む改憲派の動きを批判しました。最後に集会の締めとして、梶野さんから示されたイスラエル大使宛の要請文を市職の女性部長・上原さんが読み上げ、参加者の拍手で決議されました。争いは武力では解決しえないこと、平和的手段による合意のみが持続する平和を可能にする唯一の道であることを確認した集会でした。　　事務局　三好康昭

11/29 高校生へ署名等の宣伝行動

今日 11 時から、伊豆伊東高校前で、高校生に向け宣伝活動を行いました。核禁条約批准の署名、赤紙兼平和の集いの案内ビラ、平和メッセージ入りティッシュ配布、の三つを合わせた行動です。新婦人の会と母親連絡会、原水協伊東支部、それに川奈 9 条の会も加わって、全部で 14~5 名の方が参加しました。この日は 2 年生の期末試験日。下校時間を狙って待ち構えました。ところが生徒は一向に現われない。冷たい風が容赦なく吹き付ける。「どうしたんだろう、時間を間違えたのかな?」と疑心暗鬼になりかけた頃、ようやくお客さんが現われました。一人の生徒に何人も群がり、怯えたように署名する子も。面白いのは、男子生徒は恐れをなして(？) 階段を降りてこない。女子生徒は 2~3 人とグループで来てビラやティッシュを受け取る。ようやく賑わい始めた頃、恰幅の良い教員が登場し、「敷地の中に入らないで」と小言。こちらも慣れたもの、「はい、はい」と。そんなこんなで 12 時過ぎまで活動しました。ティッシュは 50 個以上、赤紙ビラはもっと多く捌けました。署名してくれた子も 10 人以上いたようです。寒風の中の統一行動はこうして終わりました。

川奈 9 条の会　三好康昭